



特定非営利活動法人 コミュニティリーダー ひゅーる ぽん

事業計画書

2016

活動の基本方針

自分の心からはじまる笑顔 make smiles from my heart

今年、ひゅーるぽんは、創立35周年目の年を迎えます。

障がいのある子どもたちが、家から出て地域の中で楽しい時間を過ごすことができること。彼らの家庭でも学校でもない育ちの場を作ること。

青少年をはじめとする多くの人たちとボランティア活動を共有しともに歩むこと。

新しい「かたち」の障がいのある人たちの社会参加のあり方を実現すること。

障がいのある人たちのアートによって社会を楽しく幸せに変えていくこと。

子ども発達支援を地域の中核になって行う児童発達支援センターを多くの人の志とともに立ち上げ、心のこもったていねいな育ちの支援を行っていくこと。

そしてそれらの活動の中で共に成長し合うこと。

私たちの心の中にあつた夢は、ひとつひとつ形になり、また、私たち自身も多くのみなさんとの出会いと協働を通して大きく成長をさせていただきました。

そして、今年、私たちは、ともに育ちあつてきた子らをスタッフに加え、またひとつ希望に満ちた新しい歩みをはじめます。

一方、社会全体に目を向けると、物理的な豊かさを求める欲求ばかりが先行し人間自身の心の豊かさやつながりは加速度的に失われてきているように思います。社会の流れに乗れば乗るほど、社会の動きに合わせればあわせるほど、物質的な豊かさと反比例するように心の余裕が失われていくのを感じます。本来、社会は生きとし生けるものすべての幸せに向かって成長すべきだと思いましたが、気がついてみると今の私たちはその具体的な未来の姿すら思い描けない、いや、それ以前に将来に思いを馳せることすらできていないと感ずることがあります。

自身の内に豊かさを持たない人間は、きっと誰も幸せにすることはできない、余裕のない人の集まりは、未来に豊かさを生むことはできないと思います。

今年も、あわただしい一年になりそうです。

しかし、私たちは断固として忙しさに流されない一年にしたいと思います。

私たちは、いつも以上に豊かで、余裕と喜びのある一年を生み出していきたいと思ひます。

そのために

目の前の同僚、子どもたち、通所者を大切にして、楽しく幸せな毎日をつくること。共に生きる喜びをつくること。

自分から動いていくこと。

より一層、仲間と力を合わせていくこと。

それでも、困難な時は、みんなでひとつになって、全員の力で乗り越えていくこと。

もし、心に余裕がなくなってきたと感じたら、すぐに声を上げて、立ち止まって、違う道を考えること。

欲張らず、無理に合わせず、勇気を出して大切なことだけをていねいに行っていくこと。

そして、その繰り返しの中で、毎日の生活に喜びと幸せが感じられること。
忙しさの中で完璧を目指してあれこれバタバタ動き回るよりも、ひとつ現場に、地域に笑顔が生まれることの方が尊いと思えること。

先日来日した、ホセ・ムヒカ氏は、

「世界が物とお金と資源で溢れている中、人に車を貸すことも惜しみ、貧乏人に手を差し伸べず、野良犬にご飯も家もあげないような、こんなにもセコイ世界は他にあるのでしょうか。」
とおっしゃいました。

何を大切にすべきか。
本当の幸せとは何か。

私たちは自問していきたいと思います。

そして、心から笑える人が幸せな笑顔と社会を創ることを実践し、証明するスタッフでありたいと思います。

そう思える人たちこそが、きっとこれから先の幸せな未来を創る人だと考えるからです。

「この子らと世に光を」

今年、私たちは、自分たちとともに育ってきた子どもらと新しいひゅーるの時代を創っていきます。

運営に関わるプログラム

私たちの理念を大切にされた法人運営のあり方について、事業の一部の社会福祉法人化を含め再度検討し、安定した法人運営につなげていきます。

さまざまな活動を進める上においては、「子ども主義」「本人主義」の考え方に常に立ち返り、子どもたち、通所者たちがいつでも安心して通える場として現場の活動をさらに充実発展させるという根幹は揺らぐことなく取り組んでいきます。

さらに、今年度はこども発達支援センターで「障害児等療育支援事業」に、またアート分野では、広島県と協働して「アートサポートセンター事業」に取り組みます。こども発達支援センターとして、また障がい者アートの発信拠点として、これまで取り組んできた実績と私たちの専門性を最大限に活かし、積極的に地域・社会に向けての発信力を発揮していきたいと思えます。

1-1.各種運営会議

1-1-1 運営に関する会議

1-1-1-1 通常総会

1-1-1-6 業務セクション会議

1-1-1-2 顧問監事会

1-1-1-7 事業検討委員会

1-1-1-3 理事会

1-1-1-8 こども発達支援センター運営会議

1-1-1-4 運営委員会

1-1-1-5 Think Different・外部協働会議

1-1-2 プログラム実施に関する会議

1-1-2-1 コミュニティスペース事業に関わるプログラム会議

1-1-2-2 まちづくり、ボランティア育成事業に関わるプロジェクト会議

1-2.活動支援プログラム

1-2-1 Hull Fan

1-2-2 一般寄付

1-3.スタッフ・リーダー研修

1-3-1 新人スタッフ研修

1-3-2 グループ内研修

1-3-3 他団体主催セミナー（講座）への参加

1-4.その他 広報

法人としての理念や取組みを伝えるための、発信力を高める努力を行っていきます。広報紙またはwebを活用した情報発信等。

コミュニティスペースプログラム

2-1.こども発達支援センター事業

2-1-1 児童発達支援（ひよこ組）＝児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

今年度も「安心感、生活習慣、運動、認知・適応、言語、遊び・集団参加」という領域を軸に、個別支援計画を保護者と丁寧に確認しながら、子どもたちが安心して生き生きと自分らしさを発揮できる場にしていきたいと思っております。また、昨年度に引き続き、発達年齢別のグループ療育も行っていくと共に、今年度は、生活年齢を尊重したクラスでの療育も大切にしていけるような体制を作っていきます。そのためにも、スタッフ全員で共通したねらいを持ち療育を行えるように、協力スタッフを含めた会議の時間を日々の中で作っていきます。

保護者支援では、月1回の「ひよこサロン」が定例化してきており、保護者同士の横の繋がりも出来てきました。今年度は、ひよこサロンの中で出てきた保護者の悩み、課題を、保護者研修に結びつけ、保護者と共に深めていきます。スタッフ自身も、それぞれの力量を高めていきながら日々の療育場面だけでなく、保護者支援や外部との連携場面で専門性を発揮することを目標とし、子どもやその保護者に寄り添う「家族支援」を展開していきます。家族の生活を24時間丸ごと捉えていきながら、課題を一緒に考え解決する視点を保護者支援の柱とします。

事業目的	2歳から就学前までの発達に課題のある子ども達の思いや願いをくみ取りながら大切に育むことや生活の支援を行うことを通して、日常生活動作の自立や人・集団に対する愛着心を育むこと、いきいきと過ごしていくための支援を行ないます。
実施内容	<p>ひゅーるぽんこども発達支援センター独自の安心感を基盤とした交流感・有能感・自己決定感の醸成を基礎として、発達支援指針に基づく「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」「養護」の6領域の支援を行います。</p> <p>○活動計画 発達課題に配慮した個別療育支援計画に基づいた支援をおこないます。</p> <p>○行事予定</p> <p>4月：はじまりの会 5月：徒歩遠足、支援計画提示個別懇談 6月：健康診断 7月：たなばた、水遊び、歯科検診 8月：水遊び、カレーパーティー 9月：お月見会（年長児おとまり会） 10月：遠足、支援計画中間個別懇談 11月：やきいも 12月：おもちつき、クリスマス会、冬休み 1月：冬休み 2月：豆まき（節分）、健康診断、支援計画まとめ懇談 3月：巣立ちの会、春休み</p> <p>※毎月：誕生会・身体測定を実施</p>
実施予定	通年
事業体制	スタッフ、ボランティアリーダーなど
事業費	43,662,466円

2-1-2 放課後等デイサービス事業（きつ組）＝児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

きつ組では引き続き安心感、交流感を大切にした育ちの支援を行います。引き続き、年齢や発達段階に合わせた集団での支援目標を設定し、年間の活動プログラムと連動させていきます。

年少の子どもたちは昨年度高まった交流感を基盤に、友達といろいろなことに挑戦し、一緒に取り組む過程を楽しんだり、達成できた喜びを共有することを大切にしたいと思います。年長者の子どもたちは、自分で考えて行動する力を高めるために、生活経験を広げること、仲間と協力してやり遂げる楽しさを感じることができるよう、活動内容の充実を図りたいと思います。合わせてきつ組の異年齢集団の良さを活かし、日常的な集団遊びや、主体となって企画実施する活動を通して、子どもたちが相互に育ち合うために、集団としての一体感を感じる場面を日常的に多く作るようにしていきます。

また、社会力チェック表、全国児童発達支援協議会の「発達支援の指針」と照らし合わせながら、幼児期から成人期までの発達過程の中で、学齢期の間はどういう力を身につけておけばいいのか、到達目標とそのため具体的なアプローチ手法について再度検討、整理することに取り組むと共に、それらを全体で共有し、幼児期から成人期までの一貫した支援につなげていきたいと思っています。

保護者支援では、日々のやりとりを大切に支援の方向性について共通認識を持つこと、子どもの年代、発達課題に応じた様々な学び、交流の機会を提供することに取り組めます。なお、必要に応じて学校やその他関係機関、相談事業担当者との連携を図りながら支援に活かしていきます。

事業目的	障がいのある子ども達に対して、子どもの想いや願いをくみ取り、大切に育む事を活動の基本とし、安心感を基盤に人や社会とつながって、いきいきと自己の力を発揮していけるよう育ちの支援を行います。
事業内容	<p>安心感を基盤に、交流感、有能感、自己決定感を育み、子ども達の社会力を高めるための支援を行います。さらに実際の指導に当たっては発達支援指針にもとづいて「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の6領域の発達支援を行います。</p> <p>(1)活動計画</p> <p>年間を通して、子ども達の想いを大切にしながら、自立した日常生活を営むために必要な支援、創作的活動や作業活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供を行います。</p> <p>月別活動予定</p> <p>4月 さくらまつりへの参加、バーベキュー</p> <p>5月 保護者交流会、保護者勉強会、個別懇談（個別支援計画の確認）</p> <p>6月 クッキング、お泊まり会</p> <p>7月 カヌー、プール、夜市への参加、保護者勉強会</p> <p>8月 キャンプ、プロ野球観戦、プール、おぼけやしき</p> <p>9月 旅行、保護者勉強会</p> <p>10月 サイクリング、個人懇談（個別支援計画の見直し）</p> <p>11月 サイクリング、地域のお祭りへの参加、保護者勉強会</p> <p>12月 クリスマス会、保護者交流会</p> <p>1月 初詣、書き初め、雪遊び、保護者勉強会</p> <p>2月 節分、バレンタインクッキング、個人懇談（個別支援計画の評価）</p> <p>3月 旅行、すだちの会、保護者勉強会</p> <p>その他、年間を通じて運動クラブを実施予定</p> <p>○個別支援については、子どもの社会性を計る社会力評価表を利用し、子どもたち一人ひとりの現在の状況と課題を促え直し、短期的、長期的な個別の支援計画を作成し、支援を行います。また集団ごとの目標を設定しアプローチを行います。</p> <p>○こども発達支援センターとして、専門性を生かし地域社会で果たす役割を考察しながら、学校・関係機関・医療機関等との連携・協働による支援を行います。</p> <p>○ひよこ組、ぽんぽんとの合同の活動を積極的に行い、関係を深めるとともに、子ども達の成長の場面にします。</p> <p>○個別懇談、保護者勉強会、交流会を通して保護者と想いを共有するとともに、保護者間の繋がりを深める場面にします。</p>
実施予定	通年
事業体制	スタッフ、ボランティアリーダー、外部協力者など
事業費	26,479,372円

2-1-3 保育所等訪問事業＝障害者総合福祉法に規定する事業

事業目的	保育所等において、発達に支援が必要な子どもが他の子どもとの集団生活に適應することができるよう適切で効果的な専門的支援を行います。
実施内容	ひよこぐみ退園児および、障害児相談支援のプランにより当事業が必要と認められた児童への支援をおこなっていきます。
実施予定	通年
事業体制	保育士
事業費	1,668,508円

2-1-4 障害児相談支援事業（＝児童福祉法に規定する障害児地域支援事業）・障害児指定特定相談支援事業（＝障害者総合福祉法に規定する事業）

昨年度に引き続き、こどもの育ちに関する相談、サービス等利用計画作成に関する相談に対応し、地域の発達に支援の必要なこども達の育ちを応援していきます。

福祉サービスを必要としている人誰もが、安心して支援を受けながら生活することができるよう、また福祉サービスだけにとどまらず関係機関等と連携しながら、こどもと家族のより良い地域生活を応援していきます。

事業目的	地域の発達に支援が必要な子どもが自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう相談支援を行います。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○相談の受け入れ 一般的な育ちの支援に関する相談 通所や児童福祉サービスに関わる相談 豊かな地域生活をおくるための相談 他機関（行政、保育園、学校、幼稚園等）との連携 ○サービス等利用計画作成 ○障害者自立支援協議会安佐南地域部会への参加とこども部会の実施（2か月に一回）
実施予定	通年
事業体制	スタッフ
事業費	4,553,456円

2-1-5 その他 こども発達支援センター自主事業 =自主事業

事業目的	こども発達支援センターとしての専門機能を活かし、地域で発達に支援が必要な子どもやその家族への相談、他機関との連携を行い、地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たします。
事業内容	<p>○公開研修の実施 地域の保護者や事業所スタッフを対象にした勉強会を通して障がいや市民活動への啓発活動を行います。</p> <p>○安佐南区こども発達支援事業所連絡会の運営 子どもたちのより良い育ちの場を作っていくため、安佐南区地域の児童発達支援・放課後等デイサービスの事業所連絡会を3ヶ月に1回ひゅーるぽんが事務局となって開催し、事業所間の情報共有、研修等の活動を行います。</p> <p>○福祉施設としての役割 学生の職場体験実習を始め積極的に地域・他機関との連携・実習受け入れ等を行います。</p>
実施予定	通年
事業体制	スタッフ

2-1-6 広島市障害児等療育支援事業

事業目的	広島市より委託を受け、障害児等の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられる療育機能の充実を図り、地域の発達に支援が必要なこどもたちの福祉の向上を図ります。
事業内容	<p>○在宅支援訪問療育指導事業 希望に応じて保健師、社会福祉士等が各家庭を訪問し、健康診査、相談及び助言を行います。</p> <p>○在宅支援外来療育指導事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンひゅーる 隔週火曜日(第2・第4) 10:30～12:00 子育て中の親子を対象に、遊びの支援、集いの場の提供を行います。 ・ぴよぴよくらぶ 隔週火曜日(第1・第3) 10:30～12:30 発達の支援が必要な幼児(親子)を対象に、生活や遊びの支援を行います。 ・こっこくらぶ 第1木曜日 10:30～12:00 幼稚園等に通園する就学までの保護者を対象に集いの場を提供し、保護者の悩みの軽減や研修などを行います。 ・保護者研修 発達支援が必要なこどもの保護者を対象に、より良い子育てに向き合えるよう保護者研修を行います。 <p>○施設支援一般指導事業 ひゅーるぼんの保育士等が、地域の保育所等の職員に対し、発達支援に関する技術の指導等を行います。</p>
実施予定	通年
事業体制	保育士 保健師 相談員 ボランティア その他のスタッフ
事業費	2,352,659円

2-2.コミュニティほっとスペースぽんぽん =地域活動支援センター

今年度も、活動への充実感・達成感を高めながら、いきいきと人や社会と繋がって生きていくための支援を行いたいと思います。通所者ひとりひとりが力を発揮し、オリジナリティのある製品や作品を生み出し、社会に広めていく活動に取り組みます。また、ネットワークの広がりとともに、彼らの力を認め彼らの生み出す作品や製品に共感していただける方、心を通わせてくださる方をより一層増やしていきたいと思っています。

昨年度、広島市内にある「金木屋」や「ギャラリーG」、鳥取県倉吉市にある「ギャラリー無心」などでアート展を行い、多くの場でぽんぽんのアートやアートグッズを評価していただきました。今年も、彼らのアートを通して、幅広く豊かな楽しい日常を社会に伝え広めていきたいと思っています。そのために、今年度の事業は、アート作品の制作、クオリティーを追求したアート関連グッズの制作、アート関係の権利の整備等、活動の中心をアートに置き、特化した形で取り組んでいきたいと思っています。

通所者の利用年数が長くなるにつれ、通所者の生活環境にも変化があり、通所者の健康面が課題になっています。昨年同様、肥満、加齢による体力の低下・意欲の低下についての取り組みも行っていく必要性を感じています。保健師に協力を得ながら、家族とともに考えていきたいと思えます。また、外部より講師を招き、定期的に体を動かすことができる時間も設けていきます。

経常的な運営の赤字については、昨年度通所者が4名退所したため、更に厳しい状況にあります。そのため、通所者の増員のために、支援学校や各団体、保護者に募集を呼びかけると共に、就労継続B型事業所への移行を視野に入れ、運営費不足の軽減につながる努力を行っていききたいと思います。

事業目的	18歳以上の障がいのある人の就労、社会参画ならびに豊かな地域生活の支援を行うことを通して、人や社会とつながる喜びを感じながらいきいきと豊かに生きていくことを支援する。
実施内容	<p>(1)人や社会とつながっていきいきと豊かに生きる社会生活支援活動</p> <p>○働くことの支援 アート（アート製品づくり・販売、レンタルなど）を通じた就労・自立支援、社会参画支援。就業支援センターと連携した就労支援。</p> <p>○生きがいの支援 生活能力の向上、健康管理・維持増進に関わる取り組み、生活面の指導・支援、医療・関係機関との連携、人権擁護センターほっと「ほっとさん」の訪問、健康維持活動（保健師による健康観察、定期的開催する運動クラブ活動）</p> <p>(2)あたたかなまちづくりの拠点となる活動 ギャラリーでの絵画展示・貸し出し・企画展、イベントの企画（ぽんぽんマルシェ、ニャンフェスなど）、イベント時のカフェの運営、など、日常的な地域の交流拠点づくり。</p> <p>(3)利用相談や地域生活に関わる相談、利用希望者の見学・体験、実習生、ボランティア・アートサポーター、見学の受け入れ ※「地域活動支援センターⅢ型事業」として実施し、障害者総合支援法に基づく「就労継続B型事業所」に移行を検討。</p>
実施予定	通年
実施体制	スタッフ、ボランティアリーダー、アートサポーターなど
事業費	15,745,596円

まちづくり・コミュニティボランティア育成プログラム

3-1 まちづくり

3-1-1 アートによるまちづくりプログラム

3-1-1-1 アート・ルネッサンス2017 =まちづくりに関わる事業

アート・ルネッサンスでは、アーティストの自由な表現を大切にし、その魅力を多くの人に真っ直ぐに伝えていくことを、2001年の開催時から変わることなく取り組んでいきます。

創作活動に取り組むアーティストの発掘、作品発表の場の提供、多様な形での表現のおもしろさとその価値を伝えることを行います。

事業目的	○障がいのある人のアートが持つ芸術性と価値を広く社会に広めていきます。 ○アーティストと社会がつながる社会参画の場をつくります。 ○現場で制作するアーティスト、サポーター同士のつながりを広げます。 ○アーティスト、サポーターの表現活動に取り組む創作意欲が高まる取組みを行います。
実施内容	○中国地方5県で障がいのある人の芸術作品を公募し、選考の上、展示を行います。 ○アーティスト、サポーター、市民との協働の形で開催します。
実施予定	2017年2月
実施体制	事務局スタッフ、アートサポーター、ボランティアリーダー、一般ボランティア、アーティストなど
事業費	1,220,000円

3-1-1-2 幸せProducts. =まちづくりに関わる事業

幸せProducts.では、引き続きアートの魅力を生かした製品づくりに取り組むと共に、アートが日常の中にある面白さを社会に広めることを目的として取り組んでいきます。また今年度は、より多くの方に彼らのアートを身近に感じてもらえるような新商品の開発と販売にも力を入れていきたいと考えています。その製品を手にとることで、アートが生活にあることによって生まれる幸せに出会う喜びを感じてもらいたいと思います。そのためにも、製品化について、視点や意見・知識を取り入れながら、アートの製品化のプラットフォームづくりを進めていきたいと思っています。これらの取り組みは、社会に新しい価値をもたらす取り組みとして、今年度も彼らの自己表現としてのアート活動を中心に据え、支え、広げていくことで社会に幸せを生み出していきます。

さらに、「アート・ルネッサンス」や「アートサポートセンターひゆるる」の動きに合わせ、協働してアートがまちの中で展開していくムーブメントに引き続き取り組み、アートがある面白さを伝えていきたいと思っています。

事業目的	○社会の中で障がいのある人のアートを普及させ、またアートの製品化を通して、障がいのある人の社会参画と自立を促進します。 ○アートをまちづくりに活かす取り組みを、ムーブメントとして高めていきます。
実施内容	○アートを使った新製品を開発、販売。 ○アートルネッサンスと連携した障がい者アートを活用したアートイベントの開催 ○製品化について製品開発会議、外部との意見交換の実施
実施予定	通年
実施体制	スタッフ、アーティスト、アートサポーターなど
事業費	320,000円

3-1-1-3 アートスペース・アート教室 =まちづくりに関わる事業

事業目的	○障がいのある人のアートを支援するノウハウと資源を活用し、アートに取り組む環境を提供してきます。 ○地域へ開かれたアート教室を開催し、制作環境を高めていきます。 ○アーティストの発掘とアートの社会化を目指していきます。
実施内容	○アートスペース（主に絵画）を新たに開設。週2回。（月4回コース・8回コース）アーティストが刺激しあい、のびのびと作品づくりを行える制作環境の場を提供します。 ○アート教室（陶芸）の開催。月2回。外部より専門の講師を招き、自由な発想で個性的作品づくりを行います。 ○アート・ルネッサンス等の公募展への応募、作品展の開催等、作品を通じた社会参画を行います。
実施予定	通年
実施体制	スタッフ、外部講師
事業費	1,056,000円

3-1-1-4 アートサポートセンターひゆるる

事業目的	○障がい者芸術文化活動に関わる、活動基盤の充実・強化を図ります。
実施内容	○アートサポートセンターひゆるるの運営 ○障がい者アートに関する情報発信 ○障がい者アートに関する相談窓口 ○障がい者アートの普及・啓発 ○障がい者アートに関する人材育成事業 ○障がい者アートに関する創作活動支援（セミナー・ワークショップの開催／指導者派遣） ○鳥取県との連携事業の実施 ※今年度は、広島県の平成28年度障害者芸術文化活動支援事業を受託して実施します。
実施予定	通年
実施体制	スタッフ、専門家協力委員、サポート協力委員、その他
事業費	8,406,536円

3-1-2 地域・社会啓発にぎわいづくりプログラム =まちづくりに関わる事業

事業目的	「ひゆるるぽん」が実施するさまざまなプログラムを通して、多様な人たちの交流の場を創造し、人のつながりづくり、気づきや成長へと発展させていきます。
実施内容	○桜まつり・夜市・秋まつり・ぽんぽんマルシェ 啓発とともに地域住民が足を運びやすい地域に開かれた「おまつり」「拠点づくり」をめざします。
実施予定	通年
実施体制	スタッフ ボランティアに関心のある人
事業費	15,000円

3-1-3

地域協力プログラム =まちづくりに関わる事業

その他、公民館まつり、区民まつり等地域行事への協力を行います。

3-2 コミュニティボランティア育成プログラム

昨年の活動では、学生が自身の研究分野の学びとリンクさせる形で、こども達や通所者とより深いつながりを持ったり、企業の方が継続的に活動に参加してくださり、得意分野を活かして相互にかかわりあう場面を作るなど、新たに有意義なつながりができました。今年度も引き続き、このつながりを大切にしながら、地域のボランティア育成の拠点として、学生や地域の人々を巻き込み、協働しながら社会を豊かにしていくプログラムを作っていきたいと思えます。

3-2-1 ボランティアセンタープログラム =ボランティアおよびボランティア団体の参加・育成支援、そのための助言に関わる事業

事業目的	ボランティアに関心のある人々を巻き込んでいながら、学び・学びあいの場を提供していきます。 私たちが展開する様々なプログラムに参加することをおして、ボランティア・市民活動について相互に学び合う場を作ります。
実施内容	○それぞれの拠点、行事等への中学生・高校生・大学生の職場体験実習やボランティアの積極的な受け入れをします。 ○近隣の中学生へ、ボランティアとして活動への参加や協働のプログラムを呼びかけます。 ○ひゅーるぽんの活動を定期的により広く地域の人に伝え、参加、協力をしやすい環境を整えます。
実施予定	通年
実施体制	スタッフ、外部講師

3-2-2 ボランティアコーディネーター養成講座 =ボランティアおよびボランティア団体の参加・育成支援、そのための助言に関わる事業

事業目的	○ボランティアコーディネーターの知識を深めるとともに、実践力を身につけたコーディネーターを育成することで、各団体におけるボランティア受け入れ資質の向上と市民活動の充実を図ります。 ○広島各現場で活動するコーディネーター同士が日常的につながることで、連携によるコーディネートが可能になるとともに、協働によるまちづくり活動を実施します。
事業内容	基礎編・応用編の2本立ての研修を開催する予定です。
実施予定	通年（年2回）
実施体制	スタッフ 広島市社会福祉協議会との共催
事業費	30,000円

3-2-3 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議協力プログラム
=緊急・災害時の支援に関わる事業

事業目的	「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」構成団体として、協働しながら災害時の対応にあたります。
実施内容	○定例会議への参加 ○災害ボランティアセンター開設・運営シミュレーションへの参加 ○その他
実施予定	通年
実施体制	スタッフ 協働団体

3-2-4 その他 講師・委員派遣 =ボランティアおよびボランティア団体の参加育成支援、そのための助言に関わる事業

事業目的	講師や委員の派遣を通して、社会啓発、障がいのあるこどもと大人の福祉の充実・ボランティア・NPO活動を推進するための社会基盤整備、まちづくりに関する提言を行います。同時に他団体とのネットワークを強化していきます。
事業内容	行政・学校・他団体等からの要請に応じて、講師・委員を派遣します。
実施予定	通年
実施体制	事務局スタッフ、ボランティアリーダー

